

第2号議案 2002年度事業報告に関する件

1. 学術集会、学術講演会等の開催

1) 年次学術集会

日時：2002年4月18日（木）～20日（土）、場所：シーホークホテル&リゾート、福岡ドーム。参加者数は、学術集会が5,200名、一般市民を含む公開企画に25,000名であった。一般演題応募総数1,086題、内採択1,079題、不採択7題、採択率97.5%。大会企画プログラムは会長講演1、特別講演2、招請講演6、学術講演15、宿題報告2、シンポジウム5、パネルディスカッション6、ワークショップ4、サテライトシンポジウム1、日本麻酔科学会賞受賞講演（山村記念賞、若手研究者奨励賞）、ランチオンセミナー27。

2) 支部の学術集会

各支部で合計9回の学術集会が開催された。

- ・ 第50回北海道支部学術集会（主催：岩崎 寛） 2002年9月17日（土） 北海道大学講堂
- ・ 第59回東北支部学術集会（主催：西川俊昭） 2002年9月22日（日） 秋田県総合保健センター
- ・ 第41回関東・甲信越支部学術集会（主催：小田切徹太郎） 2002年9月21日（土） 長野県松本文化会館
- ・ 第94回東海支部学術集会（主催：小松 徹） 2003年2月15日（土） 愛知医科大学たちばなホール
- ・ 第71回北陸支部学術集会（主催：山崎光章） 2002年9月1日（日） 富山医科薬科大学講堂
- ・ 第72回北陸支部学術集会（主催：山崎光章） 2003年3月9日（日） 富山医科薬科大学講堂
- ・ 第48回関西支部学術集会（主催：古賀義久） 2002年9月14日（土） 近畿大学11月ホール
- ・ 第39回中国・四国支部学術集会（主催：新井達潤） 2002年9月28日（土） 松山市コミュニティーセンター
- ・ 第40回九州支部学術集会（主催：寺崎秀則） 2002年9月28日（土） 熊本産業文化会館

3) 教育講演の開催

第1回リフレッシュコースとして2002年4月20日（土）、福岡シーホークホテル&リゾートにて開催した。危機管理、麻酔の安全、痛み・ペインクリニック、循環系、呼吸器系の5コース3講座で、参加者数738名、テキスト購入者数1,235名であった。

2. 学会誌その他の刊行物の発行

1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号（Vol.16-No.2～Vol.17-No.1）を発行した。

2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で12号（Vol.51-No.4～Vol.52-No.3）を発行した。

3) 学会ニュースレター

社団法人日本麻酔科学会ニュースレターを季刊で4号（Vol.10-No.2～Vol.11-No.1）を発行した。

4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第50回学術集会抄録集およびプログラム、特別企画号を発行した。

5) 会員名簿および年報

2002年度会員名簿および年報を会員専用ホームページに掲載した。

6) 教育講演テキスト

2003年5月31日開催の社団法人日本麻酔科学会第2回教育講演テキストを発行予定。

7) 教育ガイドライン

研修医,専門医,指導医の段階別に知識と実技に分けて,大項目,中項目,小項目で到達目標を設定し,認定制度とリンクして使用する目的で作成された.

8) 麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン

厚生労働省の請負事業として,2002年~2003年の2年間で麻酔関連薬剤等の適正使用を定める目的で作成された.

3. 学会認定医等の認定

1) 認定医等の資格試験の実施

2002年10月4日~6日,神戸ポートピアホテルにて第41回麻酔科専門医認定試験が実施された.2002年度新規認定指導医合格者数は270名となった.

筆記試験受験者数 : 232名 合格者数 : 185名 合格率 : 79.7%

口頭・実地受験者数 : 198名 合格者数 : 190名 合格率 : 95.9%

同時試験受験者数 : 107名 合格者数 : 80名 合格率 : 74.7%

2002年度新規認定指導病院数は新規申請38施設のうち34施設が合格した.

2) 認定医等の資格更新審査

2002年12月20日,社団法人日本麻酔科学会事務局にて2003年4月1日麻酔指導医更新予定者および麻酔指導病院更新予定施設の審査会が開催された.2003年4月1日麻酔指導医更新予定者は499名となった.

第1回更新予定者 : 239名

第2回更新予定者 : 240名

特例申請者 : 20名

辞退者 : 15名

未提出者 : 2名

2003年4月1日麻酔指導病院更新予定施設は47施設の内,4施設が辞退し,43施設となった.

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞3賞(山村記念賞・社会賞・若手奨励賞)の2003年度受賞予定者の選考を行い,以下のとおり決定した.

1) 山村記念賞

松本 美志也(山口大学医学部附属病院麻酔・蘇生学講座)

「脊髄虚血の病態と治療」

2) 社会賞

鈴木 宗生(熊本赤十字病院 麻酔科)

「発展途上国,クルド人地区での医療活動」

池田 和之(浜松医科大学麻酔学講座 名誉教授)

佐藤 信勝(元丸石製薬中央研究所)

「セボフレンの開発」

3) 若手奨励賞

(基礎)

鈴木 高広(大阪大学院医学研究科 生体機能調節医学講座)

「吸入麻酔薬はヒト 5-HT₃ 受容体に対して増強もしくは抑制作用を示す」
(臨床)
該当者なし

5. 研究及び調査の実施

1) 麻酔関連偶発症例調査

麻酔指導病院844施設を対象に行い、773施設から回答があり、回答率91.6%があった。
麻酔関連偶発症例調査 2000 の解析発表完了。麻酔関連偶発症例調査 2001 の一部の解析結果発表。
麻酔関連偶発症例調査 2002 の調査実施。麻酔偶発症例調査 2004 の計画（麻酔台帳を作成し HP でダウンロード可能にする）

2) 麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合、あるいは規格そのものに問題がある機器に関して常時窓口を設け、ホームページを通じて常に情報を収集し、即時にフィードバックした。また、よりホームページの検索を平易にするために改良した。

3) 麻酔関連機器 JIS 規格に関する検討

C/DIS 60601-2-12.2 Medical electrical equipment – Part 2-12: Particular requirements for the safety of lung ventilators- Critical care ventilators の翻訳が終了、引き続き ISO 9703-3 Anaesthesia and respiratory care alarm signals – Part 3: Guidance on application of alarms の翻訳を開始

「日本麻酔科学会版 麻酔器の始業点検 定期点検指針」を working group で作成した。2003 年 5 月印刷予定。

4) 麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関するガイドライン作成

2001 年度厚生労働省関連学会医薬品等適正使用推進試行的事業契約により、現在臨床で最も使用頻度が高いにも関わらず、問題視されている薬剤および使用方法に関する項目に付きガイドラインを作成した。

6) Closed Claims Study の推進と研究

インシデントレポートの収集し、査読後に HP に掲載した。その他、米国麻酔関連の CCS 研究者である Cheney 氏を招き、50 回学術集会特別企画として、米国 CCS について講演会と勉強会を行う。

7) 救急救命士の業務拡大に関するアンケート調査の実施

厚生労働省と共同で、麻酔科専門医の常勤人数別 420 施設を対象に、施設長、麻酔科長および患者に救急救命士の業務拡大（主に気管挿管）について、アンケート調査を実施した。

8) 麻酔科医マンパワー調査の実施

麻酔科医の労働配置や配分、勤務実態、関係領域への進出等につき、わが国における全身麻酔実施施設を対象に、地域別、施設別等の区分けで、アンケート調査を実施した。

6. 関連学術団体との連絡及び協力

1) 登録・派遣

日本学術会議,日本医師会,日本医学会,厚生労働省医道審議会標榜医審査会,有限責任中間法人日本専門医認定機構,大学評価・学位授与機構,日本外科学会,外科系医学会社会保険委員会連合,救急医療研修財団,日本蘇生協議会,3学会合同呼吸療法士認定委員会,臨床工学関連問題検討委員会,医療機能評価機構,骨髄移植推進財団等に委員を派遣し,各々の目的と事業に合わせ連携・協力を深めた.

2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム,日本臨床麻酔学会市民公開講座,社団法人日本ME学会ME技術講習会・検定,財団法人日本救急医療財団「救急の日2002」等,バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等,関連協力団体の学術集会および講習会,市民公開講座等を協賛・後援した.

7. 国際的な研究協力の推進

1) 世界麻酔学会

世界麻酔学会理事および各種委員会委員を派遣している.2012年度世界麻酔学会誘致活動を行った.

2) アジア・オーストラレイシア麻酔学会

会計理事を派遣している.2002年7月12日にマレーシア(クアラルンプール)で開催されたジェネラル・アセンブリーにて,2010年大会の日本開催が決定した.

3) 英国留学奨励

2002年度英国留学希望者を通年に渡り募集したが,応募者がいなかった.

4) 日韓シンポジウム

50回学術集会開催時の2003年5月31日に開催される第18回日韓シンポジウムの準備を行った.シンポジストが両国から各2名,一般演題各6名,ランチョンセミナーが日本川から1名のプログラムを予定している.認定制度における参加単位が3単位加算される.

5) ロシアでのリフレッシュコース講師派遣

2002年6月にロシア・ハバロフスク麻酔科協会の要請に応じ,日本から講師を派遣しハバロフスクにてリフレッシュコースを開催した.日本からの講師は会員から公募を行った.13名の応募者の中から3名を選定し,天木交流委員を団長とし合計5名を派遣した.会は非常に盛況で今後も継続して行いたいとの報告があった.

6) 日中国交正常化30周年記念の「日中医学会大会2002」

2002年11月3日から開催された同大会に中華麻酔学会(CSA: Chinese Society of Anesthesiology)と合同で分科会として参加した.講演者の公募を行ったが応募がなかったため,国際交流専門部会より4名の部会員を派遣し教育講演を行った.北京国際会議センターで行われた分科会では,教育講演ならびにポスターセッションが行われた.また,分科会開催の他,北京市内の日中友好病院視察も行われ両国の交流がはかられた.

8. 普及啓発活動

市民公開講座を10回開催し,正しい麻酔科学と医療の普及啓発を行った.

1) 学術大会開催時

「メデイトピア2002」では,特別記念展示「手術体験ワールド」,体験イベント「救急・災害時の‘いのち’」,公開ステージ「連続市民フォーラム」(宇宙飛行士若田光一氏他6企画)を行う.この他サテライトシンポジウムでは日本医師会,関連学会の協賛を得て「AED導入について～PADに関する討論

会～」を行った。

また、本大会における新聞やテレビ報道等メディアを通じた啓発活動に参加した一般市民の総数は約208万人となった。

2) 「麻酔の日 2002」

市民公開講座「身近な麻酔」を10月10日、11日の2日間にわたって新宿NSビルにて開催した。麻酔科医の役割、麻酔の歴史、当学会の活動内容を説明したパネルの展示、アナウンサーの小川千鶴子氏を司会として招き手術時の麻酔の様子を麻酔科医とともに解説する「オペステージ」、各企業による麻酔関連機器の展示を行った「機器展示」、一般市民からの麻酔関連の質問に麻酔科医が答える「麻酔の相談窓口」の4つの企画に絞り実施をした。

3) 各支部学術集会開催時

各支部学術集会開催時、「麻酔」をテーマに計9回の市民公開講座が開催された。

9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成した。各委員会とも事業内容によって、実務を執行する専門部会を組織し、積極的な事業展開に努めた。詳細は各委員会議事録を参照。

1) 総務委員会

第1回通常総会の承認事項に基づき、本年度は医療制度改革における麻酔科領域にかかわる諸政策に参画すべく、関連省庁、関連団体との折衝を中心に活動を行った。また、支部再編や各種選挙等、学会内部の総務にかかわる事項も審議・執行した。

将来構想検討専門部会では、マンパワーの問題や専門医制度の問題など、学会として中・長期的に取り組んでいくべき事項を協議した。本専門部会の役割である。本年度はマンパワーアンケートを作成し、調査を開始した。

社会保険専門部会では、本年度外保連診療報酬要望書を作成した。

- ・ 卒後臨床研修制度のあり方について→救急と併記で麻酔科が必修科に指定
- ・ 救急救命士の業務拡大等について→あり方検討会および研究班に参加、学会として救急救命士の気管挿管に関する教育に主導的立場をとることを表明、学会の方針を反映させた
- ・ 支部細則および定款作成→各支部でほぼ足並みが揃い2003年総会時に支部設立総会
- ・ 学術集会開催地について→全国直接視察の後、6箇所を選定（札幌・横浜・名古屋・京都・神戸・福岡）
- ・ 代議員選任選挙実施→往復宅急便により会員負担を軽減
- ・ 医療事故の取組ヒアリング→厚労省医政局総務課安全対策室の要請で学会取組（Closed Claim Study 構想）をディスカッション
- ・ 渉外活動計画原案作成→厚労省、医師会等との折衝計画および中期目標を検討中
- ・ 事務局業務改善について→経営コンサルタントにより職員の安定供給をアドバイスされた
- ・ 理事選挙、理事長予備選挙、監事選挙、副会長選挙実施
- ・ 認定制度について教育委員会と協議、認定制度細則作成
- ・ 学会における ACLS 教育のあり方について検討し、2003年度から実施すべくワーキンググループを立ち上げた
- ・ 特定機能病院包括に関する厚生労働省からのヒアリング会を行った

2) 財務委員会

予算・決算に関する事項、資産の管理・運営に関する事項、各種事業費に関する事項、その他財務に

関する事項について協議，答申，執行した

- ・ 予算書・決算書の作成
- ・ 貸借対照表・財産目録・正味財産増減計算書の作成
- ・ 事業費・管理費のバランスのチェック
- ・ 支部会収支計算書と事業報告のチェック
- ・ 基金・引当金の設定と管理

3) 学術委員会

機関誌の編集・発行，学術集会の運営に関する事項を協議した．麻酔科学用語集改訂第3版の出版を行い，同用語集のホームページからのダウンロードを可能にした．日本医学用語委員会に麻酔科用語集を提出し，この用語集に基づいて医学会における麻酔科領域の用語の統一を図るよう提案した．学会賞に関して，資格，基準の検討，応募日程と応募方法を再検討し会員に告示した．また，山村記念賞，若手研究者奨励賞および社会賞の3賞について選出し，理事会に報告した．

機関誌専門部会では，機関誌編集専門部会から機関誌専門部会へと名称を変更した．**Journal of Anesthesia**誌編集 (Vol.16 No.3, Vol.16 No.4, Vol.17 No.1, Vol.17 No.2)を行った．また，MEDLINE 収載審査申請にむけ，内容の充実と国際化がはかられた．

学術大会等プログラム企画専門部会では，2006年の日本麻酔科学会本部による学術集会企画・運営にむけ，学術集会プログラムの検討を行った．過去の学術大会プログラム調査を行った．また，継続企画，新企画に関するアンケートを，学術委員，学術大会等プログラム企画専門部会員に対して行った．その結果，2006年までは大会長の意見を尊重して行く形で，学術集会を開催することが確認された．

4) 倫理委員会

「麻酔科医倫理綱領」の作成，および「異状死の取り扱いについて」検討を行った．また倫理特別審議会を結成し会員の懲罰に関して審議を行った．

5) 教育委員会

本年度は，主として，数年に渡り懸案中の認定制度を完成すべく，制度の骨子を確認した後，具体的な項目について協議した．段階別の新規および更新について，申請資格，審査方法，必要単位，書式，管理プログラム等について要点をまとめ，条文化するために，総務委員会に答申した．

認定審査専門部会では，第41回麻酔指導医試験を実施した．問題作成にあたっては，昨年度データベース化された過去問題のブラッシュアップを行った．また，新作問題および新作状況設定問題を指導病院の代表指導医に依頼し，およそ1,500問のデータベースを作成した．また，試験会場を神戸ポートピアホテルに定めた．

- ・ 麻酔科学会認定制度の改訂作業：基本理念作成
- ・ リフレッシャーコース2003（50回学術集会開催時：5月31日）の企画・広報，テキスト作成．研修医，専門医，指導医，麻酔科科長として必要な基礎知識と技術を整理した教育ガイドラインを作成し，専門医に望まれるレベルと質を明確化した．基本骨格は，学習ガイドライン，基本手技ガイドライン，薬物ガイドラインの3部構成で，大項目，中項目，小項目に細分化されている．2年～3年ごとに改訂する．
- ・ 医療制度規制緩和による専門医資格が広告可能になったため，2002年8月1日より「麻酔指導医」を「麻酔科専門医」に読み替えた．

6) 安全委員会

麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議、答申、執行した。各専門部会独自の縦割り事業ばかりでなく、「患者の安全を守る」ことをテーマに安全委員会がリードして、各専門部会で共同してトータルな安全活動を展開した。

会員に必要な情報をいち早くニュースレター、ホームページに掲載し、周知徹底に努めた。今後は、各専門部会、会員に必要な情報を学会ホームページ上に窓口を設置し、より早急な情報提供、収集に努める。

手術室安全対策専門部会では偶発症例調査、麻酔機器故障情報収集を中心に活動した。

麻酔関連機器 JIS 規格専門部会では麻酔関連器機の JIS 規格翻訳作業と、「麻酔器の始業点検 定期点検指針」見直し作業を行った

医療事故専門部会では、CCS 事業の一環としてインシデントリポートを収集すべくホームページに書式を掲載するなどの作業をすすめた。また、第 50 回学術集会開催時に特別企画として ASA の CCS 事業を担当しているチェイニー氏による講演会およびワークショップを企画した。

薬剤対策専門部会は、本年度は医薬品等適正使用評価委員会として活動し、厚生労働省委託事業として麻酔関連の医薬品等を適正に使用するためのガイドラインを作成した。

7) 交流委員会

国内外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行った。国際交流専門部会においては、2012年WCAの誘致活動として、WFSA理事を日本臨床麻酔学会に招待し、横浜開催会場視察を要請した。6月にはハバロフスク市におけるリフレッシュコースを開催し5名の講師を派遣した。11月には日中医学大会に4名の国際交流部会員を派遣し、分科会として参加した。2003年第50回学術大会における日韓麻酔シンポジウム開催に向けて、韓国側との折衝を開始した。救急医療対策専門部会においては、2月に福岡にてAED講習会を開催した。(各事項の具体的内容については専門部会報告を参照)。また、救急救命士の業務のあり方等について検討した。主に気管挿管プロトコール、薬剤投与問題、地域メディカルコントロール体制構築のあり方等について検討した。

8) 広報委員会

一般市民に対する広報活動としての継続した市民講座の開催、ニュースレターの編集・発行に関する事項、マスコミ対策の強化、ホームページの運営等に関わる事項等の協議、答申、執行を行った。

公益事業推進専門部会では、市民公開講座「身近な麻酔」を10月10日、11日の2日間にわたって新宿NSビルにて開催した。

ホームページ管理専門部会では、ホームページのリニューアルサーバ・ホームページ管理運営業者の選定、当専門部会の指針作成、掲載内容の審議、掲載目次の指針を作成した。会員に対しては日本麻酔科学会の概要、定款、理事名簿、会員からの声、緊急報告事項、各種募集、他の機関・学会からの通知を含めた学会内部に関わる情報をより迅速に、即時性を主眼に提供をできるようにした。特に緊急報告事項についてはトップページにニュース速報として掲載することとした。一般市民に対しては麻酔の啓発、市民公開講座開催のお知らせ、麻酔指導病院、並びに指導医の一覧等の情報提供をめざした。

ニュースレター編集専門部会では、年間4回の「ニュースレター」の編集と発行を行った。

発行した「ニュースレター」は第10巻1号から4号である。ホームページのリニューアルに伴い、外部一般に公開されているホームページと会員のみ配布されるニュースレターのすみ分けについて検討がされた。

9) 50周年記念事業関連委員会

50周年記念事業に関連して、50周年記念史編集委員会を開催し、各担当者に分けて執筆依頼、原稿収集等を行った。50周年記念式典等の事業を行うための準備会議を開催した。

以 上